

北星学園大学

後援会だより

VOL.103

発行日 2010年12月1日
発行者 北星学園大学
後援会事務局
札幌市厚別区大谷地西2
丁目3番1号 〒004-8631
電話(011)891-2731
印刷(社福)北海道リハビリ



地区別父母懇談会報告

地区別父母懇談会が終了!

毎年開催される地区別父母懇談会が、今年も道内七ヶ所で行われ、十月三十日の第二回札幌地区をもちまして、無事終了いたしました。

今年度は、全会場合計で五二〇組近くの申し込みがあり、前年度よりさらに多い組数となりました。全体会では大学の近況報告、修学関係についての説明があり、最後にご父母の皆様が強く関心をお持ちの就職状況について報告がありました。また、地方会場での個別懇談までの待ち時間は、就職支援課による個別相談にご参加いただいたり、ご父母同士での情報交換やご欲談できる良い機会となったようです。参加されたご父母の皆様からは、成績・就職関係はもろもろのことですが、特に離れて暮らしている方にとっては、普段の学校生活について知る機会となり、大変参考になったという声が多く聞かれました。



全体会の様子(札幌10月)



個別面談の様子(地方会場)

どもあり、貴重なご意見とし、今後の改善すべき点として努めていきたいと思えます。これからも、より多くの方々に参加いただき、さらにご満足いただけるような父母懇談会を目指して参りたいと思えます。

来年度の日程は、決まり次第『後援会だより』でお知らせいたします。今年参加できなかった皆様もぜひ足を運びくださいますようお願い申し上げます。

- ・直接先生にお話を伺うことができ、自宅で見せる姿と違った面を知ることができたのと、就職についての話を聞かせていただけたのは大変参考になりました。(七月札幌)
- ・今回初めて参加させていただきましたが、思っていたよりも和やかに過ごせて、先生方も快く話をしてくださり、とてもよい感じでした。(八月函館)
- ・学年別、又は学部別といった会をしていただけたらと思います。(八月苫小牧)

・修学・就職関係事項の説明がとてもわかりやすく良かったと思います。先生から、子どもの様子などをお聞きできて安心しました。(九月旭川)

・時間も充分あり、他の父母の方とも交流できました。昼頃はさむむことで交流しやすい雰囲気ができ、このスケジュールはとても良いかと感じています。(九月北見)

・就職の内定ももらってどうやら卒業もできそうなので、ひと安心です。大学の先生方には色々とお世話になり本当にありがたく思っています。楽しい大学生活が送れて、本人も北星に入っ

（九月釧路）

・今回懇談会に参加して、子どもの様子、教授の先生方のお人柄など細かい事がわかり本当に良かったと思えました。(九月帯広)

・子どもの受けている授業の先生だったので、お話ししやすかったです。順位の出し方、どの位の成績で、どの位の位置にいるのかお聞きすることができて大変参考になりました。子どもに話して、またそれがとても励みになると思います。(十月札幌)

・今回六回目の出席でしたが、毎回思うことですが、出席させて頂いて本当に良かったという事です。(上の子の時を含めてですが)担当して頂いている先生から直接お話を聞くことが出来る、子供の様子や、これからの実習や、授業、資格取得に向け具体的な助言を受けることが出来、本当に感謝しております。ありがとうございました。(十月札幌)

星学祭を終えて

第四十九回大学祭実行委員会
実行委員長 秋山 浩美

今年度の星学祭も、関係者の方々の多大なご支援とご協力のおかげで無事終了することができました。今年度は天候に恵まれず、二日目には雨が降っては止み降っては止みという安定しない曇り空の下で行われた星学祭でした。しかし、多くの方がご来場くださり、主催者側としては大変嬉しく思います。また、今年度も若者からご年配の方、子供まで全ての世代に楽しんで頂けるような企画を盛り込み、星学祭を創って参りました。その結果、幅広い世代の方々にご来場して頂いたことを心より嬉しく思います。

今年度のスローガンは「Share」でした。そのスローガンに沿って、星学祭をより多くの方に楽しんで頂くために、イベントや模擬店に、一層力を入れてまいりました。その甲斐もありまして、模擬店や例年行っているイベント、今年度から新たに取り入れたイベントなどへ多くの方が参加してくださり、学生の積極的なご協力も多く得られたことを嬉しく思います。

今年度の星学祭は地域の方々や委託イベントに参加して頂いた各団体、そして学生支援課の皆さんの多大なご協力によって例年以上の大盛況のうちに幕を閉じる事ができました。これに満足することなく、より一層の発展を目標にし、来年度以降の星学祭も精進していきたいと思えます。そして、第四十九回北星学園大学・北星学園大学短期大学部星学祭を開催するにあたり多大なご協力・ご援助頂いた皆様、そしてお忙しい中星学祭にお越し頂いた皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、後援会から「北星学園大学のサポーター」として、ご協力を頂いたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして、今後も皆様にとってよりよい思い出となるような星学祭にするために、私たち大学祭実行委員一同努力していきたいと思えますので、皆様のご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

卒業記念祝賀会のご案内

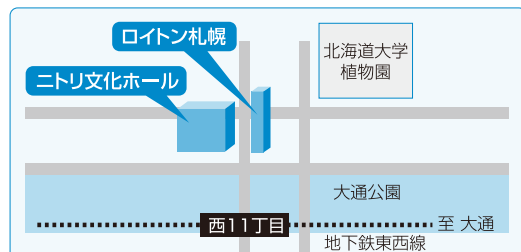
2010年度卒業式・卒業記念祝賀会が下記のとおり挙行されますので、ご案内いたします。ご父母の方も是非ご出席ください。

卒業式

日時：2011年3月15日(火)
全学部 13:00予定
場所：ニトリ文化ホール(旧さっぽろ芸術文化の館)
(札幌市中央区北1条西12丁目)

卒業記念祝賀会

日時：2011年3月15日(火)
全学部 16:30予定
場所：ホテルロイトン札幌
(札幌市中央区北1条西11丁目)





内定先：株式会社あらた 経済学部 経営情報学科

中出 拓希

ていたからだ。その約二ヶ月後にその自信が崩壊する事など当時の私は気付いていなかった。そう、現実はいかなくなかった。面接が通らない、質問に答えられない、自分自身が全く社会に通用しない。「ちくしょう!」こんな日々が続いた。

けれども諦める気は全くなかった。それは、支援課の人々の支え、友人の支え、そして何よりも親の支えがあったから諦めなかった。

自分自身、大学で好きなことが出来ているのも、全ては親の支えがあつてこそで、そんな自分が今出来る最大の親孝行は『内定を取る』ことだった。この想いがあつたからこそ就職活動を頑張ることができたと思うし、親に内定の報告をした時の喜んでくれた姿は一生忘れ

験しました。今思うと、それは自分の想いを企業に伝えきれていなかったためと考えます。そういったことを踏まえ「伝える力」が大切とアドバイスしました。

自身就職活動を振り返り、私が最も大切と感じるのは「いかに自分を相手に表現するか」ということ、つまり「伝える力」です。もちろん、自己分析や企業研究は重要と考えます。しかしそれだけでなく、そこから得られた、働くことや企業への想いをしっかりと伝えることが出来なければ意味がありません。私自身エントリーシートや面接の段階での不合格を何度も経



内定先：北海道旅客鉄道株式会社 文学部 心理応用コミュニケーション学科

佐藤 和也

た。最後にありますが、就職活動を単なるイベント事と捉えてはいけなと思います。軽い気持ちで活動してどうにかなるものでもないし、内定出来たとしても後々



内定先：株式会社マツク 短期大学部 生活創造学科

廣澤恵里佳

ることはないだろう。後輩の方々へ。就職活動は、決して避けては通れない道ですが、条件はみんな一緒です。自己分析、企業研究などと、陰での努力が、周りとの力の差を生むことをこの身で実感してきました。たくさん壁にぶち当たって成長する皆さんを心より応援しています。

私は二月頃から本格的に就職活動を始めましたが、合同企業説明会に行く度に生まれる、私はどんな仕事

全国的に厳しい就職状況が続く中、見事内定を手にした先輩方の体験談をご紹介します。これから就職活動を迎える方にとって貴重なアドバイスとなりますので、是非参考にしてみてください。

就職活動体験談

迷いが生じます。「自分の人生を左右する」という覚悟で挑んでほしいです。...と

言っても毎日そうでは気が滅入ってしまいます。頑張る時はとことん頑張る、休む時はとことん休むといったように、メリハリのある生活を送ることが大切です。

ぜひ「頑張ってる良かった」と思える就職活動を行ってください。



内定先：社会福祉法人 麦の子会 社会福祉学部 福祉臨床学科

佐々木友香

私は、やりたいことも明確にわからず、福祉関係の就職活動はうまくいきませんでした。今考えると、その企業を志望する理由が、自分の中で固まっていなかったからだと思えます。周りの友人は内定をもらっている子も始め、焦りも募り、自分の何がいけないのかと考えました。考えるうちに民間企業で私のできることは何かわからないと

をしたのか?という疑問。説明会には積極的に参加しましたが、本当に今就職すべきなのか、それとも編入しても少し勉強をするべきかという迷いが正直ありました。そんな迷いを抱きながら就職活動は、説明会には参加するけど選考会には参加しないという、中途半端な活動しかできませんでした。

しかし、私が重視する「人の役に立ちたい」と思える仕事の会社「マツク」と出会い、この一社だけに賭けて、もし落ちたら編入に向けて頑張ろうと思ひ、受けました。そして、私は就職支援課に毎日のように通ひ、履歴書の添削や面接練習をしてもらいました。その結果、ご縁があり、第一志望の会社から内定をいただく

企業の就職活動を始めました。就職活動本番になるとエントリーシート、説明会と睡眠不足の日々が続きました。面接では、面接官からの質問に、答えにつまづいたり、緊張してしまい、自分が何を話したか途途中でわからなくなってしまうこともありました。エントリーシートが通っても、面接で落ちることばかりで、就職活動はうまくいきませんでした。今考えると、その企業を志望する理由が、自分の中で固まっていなかったからだと思えます。

自分のやりたいことがなんなのか、この時期になってもわからない人も多いと思います。私にとって就職活動の経験は自分が何をしたいのか考える上でとても大切でした。興味のあることは、やってみるといいと思います。そこで悩んだり考えたりするうちに、きっと自分の進む道が見えてくると思います。

就職活動をして思ったことは、良い意味で就職支援課を利用することだと思えます。自分一人で履歴書を書くよりも、添削してもらったほうが、いいものが作れると思いますし、また、職員の方たちは親身になって私たちの就職活動を支援してくれました。私の周りでも、就職支援課に通っていた人はだいたい決まっていますので、利用するべきだと思います。

また、内定をいただけるのは本当に縁だと思ひ、自分がどうしてもここで働きたいという熱意を伝えることが大事だと思います。上手いかないことばかりだと思ひますが、根気よくたまには息抜きもして頑張ってください。

そんなある日就職支援課の福祉関係の掲示板に、私が以前から興味を持っていた障害児の通園施設の求人が出ていました。この時の面接では、自分の思いを話すことができ、緊張しすぎることでもありませんでした。その結果、児童関係の施設に内定を頂くことができました。

自分のやりたいことがなんなのか、この時期になってもわからない人も多いと思います。私にとって就職活動の経験は自分が何をしたいのか考える上でとても大切でした。興味のあることは、やってみるといいと思います。そこで悩んだり考えたりするうちに、きっと自分の進む道が見えてくると思います。

EASCOM 2010年度 東アジア学生交流プログラム報告

このプログラムはアジアの協定校(中国・大連外国语学院、韓国・カトリック大学校、台湾・東海大学)から五名ずつ、計十五名の学生を招聘するというプログラムで、十月二十日から三十日までの日程で開催されました。

今年も学生で組織された実行委員会が毎年春先から綿密に企画を練って、本番に臨みました。今年には日本福祉大学と熊本学園大学との間で相互に職員派遣研修を行うというプログラムにより、両大学から四名の事務職員も来学しており、EASCOMに共に参加し本学の国際交流の一端を経験してもらいました。



アジア屋台の様子

また、今やすっかり小学校の年間スケジュールに組み込まれていて恒例となっている大谷地東小学校訪問では、日本の子どもたちとの触れ合いを楽しみました。各国・地域の伝統芸能や特色ある文化を紹介する「アジア舞台」や各地域独特の料理等を作って振舞う「アジア屋台」も大盛況でした。

また、小樽での生寿司作り体験や登別温泉への一泊旅行、市内観光を通じ秋の北海道を満喫し、浴衣や茶道も体験しました。今年も次代を担う若者達にこのような貴重な経験をさせる機会を与えてくださり、深く感謝申し上げます。報告とさせていただきます。

学生支援課 前村俊一郎

国内・国外研修報告



“故郷”への帰郷

社会福祉学部准教授
西田 充潔

2009年9月から2010年8月まで、仙台の東北大学大学院教育学研究科にて国内研修をさせて頂きました。東北大は私の母校であり、「杜の都 仙台」は、学生時代の10年間を過ごした馴染の土地です。今回の研修は、研究に没頭させて頂くとともに、自分の学問的“故郷”へと帰ることによる新たな“発見”をしたいと思っておりました。

1年間、家族を札幌に残しての単身赴任でしたので、一人暮らしの学生のような生活をしました。早朝アパートから歩いて大学へ行き、午前中は集めた文献を疲れるまでじっくりと読む。そして午後は講座や研究室の現役院生とのゼミに参加したり、市内の幼稚園や施設での実験補助をする。そして晩には、恩師と食事をしながら、学術的なことのみならず、プライベートなことについても様々な話しをする… 自閉症児の早期療育についての個人の研究とは別に、所属の教育学研究科が主体となり実施する東北大学の研究プロジェクト（発達障害学生に対する大学としての支援システムの構築）にも参加しました。

こうした「学生」のような経験を直す中で、改めて意識したことがあります。ひとつは、教員・研究者としての日常生活について。いまさら恥ずべきことかもしれませんが、日常の「忙しさ」に対する認知的対処の方略を変える必要を痛感しました。二つ目は、北星学園大学の種々の面での“現状”を理解したこと。大学を外から眺め、そして他大学の内情を知ることで実感しました。三つ目は、自分の“将来”についてです。

自分の学問的“故郷”は、学問的認識のみならず、私の“人生観”にも影響を与えていたことを知りました。北星での教員としての生活が同様の影響を持つ可能性に改めて身が引き締まります。今回の時間と機会を与えて下さいました学園に心より感謝申し上げます。そして3人の乳幼児の子育てをたった一人ですつつも、こころよく私を送り出してくれた妻にも感謝したいと思います。

ユージーンにて

経済学部准教授
古谷 次郎

2009年9月より1年間、アメリカ合衆国オレゴン州ユージーン(Eugene)市にあるオレゴン大学(University of Oregon)に滞在しました。ユージーンはポートランドから車で2時間ほど南にある、人口約15万人の田舎町で、オレゴン大学を中心とする大学町です。秋から春にかけては、雨の日が続きますが、春から夏にかけては、晴れて蒸し暑くもなく、快適に過ごすことができました。街の中をウィラメット川が流れ、街には緑がとて多く、豊かな森林、きれいな湖と溪流、そして、太平洋に面したオレゴン・コーストにも近く、自然に恵まれた場所です。

現地では、家具・家電・食器付きのアパートを借りました。大家さんが日本にきたことのある、とても親切な方で、わざわざ私のために、炊飯器まで用意してくれました。街には、日本食材を売っているスーパーもあり、基本、毎日自炊で日本食を作り、食べることができました。このことは滞在中の肉体的、精神的健康を維持する上で大きかったと思います。

研修では、オレゴン大学に付属する語学学校(American English Institute)の授業を受け、海外からの若い留学生とともに、英語力の向上を図りました。同時に、この研修の目的である、オレゴン大学における教員養成プログラムと現地の公立高校における情報教育についての調査に取り組みました。オレゴン大学では、学部を卒業した後、大学院の1年間で必要な単位を取得することで教員免許が取得できるようになっています。大学院の授業を聴講し、プログラムについての聞き取りと資料を収集することができました。また、市内にある公立高校4校に通い、授業参観と授業担当者からの聞き取り、資料の収集を行いました。今後、この研修を通して得られたものを基に、さらに研究を進めていきたいと考えています。このような機会を与えていただいたことに、心から感謝申し上げます。

学会報告

北海道英語教育学会 第11回研究大会を終えて

短期大学部教授
竹村 雅史

2010年10月3日(日)に、北海道英語教育学会第11回研究大会が本学会を会場に開催されました。本学会は、北海道の小・中・高・高専・大学の学校種を超えた教員が英語教育研究の理論・実践を共有し合う学会として昨年10周年を迎えた若い学会であります。昨年まで、私が会長を務めた縁で、この度「英語の北星」で開催できたことは、学会として記念すべきものであり、そのお陰で当日は100名を超える参加者が一堂に会することができました。

筑波大学教授の卯城祐司氏をお招きし、『英語リーディングの科学：「読めたつもり」の謎を解く』という演題でご講演頂きました。講演は「再話」の可能性と有益性について、教育現場での展開例を具体的に示しながら、ワークショップ形式で行われました。再話は、学習者の自発的な学習活動を促し、読み手のレベルにあわせて他の言語技能と組み合わせた活動を展開できる点に魅力があり、有益で効果的な言語活動であることが確認されました。また、ワークショップを通して、再話はスパイスのように学習者の言語活動を引き立て、授業の幅を広げる一助となるということが、聞き手にも体験的に認識されたものと思われ、学校教育関係者にはすぐ実践可能で大変有益となった講演であったと思われました。

本学会が多くの参加者を得、有意義に終了できたのも大学後援会のご支援を頂いたお陰であり、ここに深く感謝申し上げます。

北海道子ども学会 第15回大会「子どもの“じりつ”を考える」

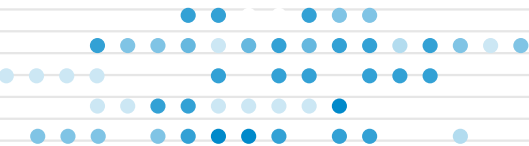
短期大学部教授
藤原 里佐

北海道子ども学会第15回大会は、8月21日(土)、北星学園大学にて開催のはこびとなり、80名余りの方が参集下さりました。北星学園大学後援会には、本学会に対しご支援をいただき、また北星学園大学には、会場校としての様々なご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

大会では、慶應義塾大学の渡辺秀樹先生による「現代家族のありかた」と子どもの“じりつ”を主題講演とし、今日的な自立観と親役割との関係性などを示唆して頂きました。また、5つの分科会、「食育と自立～乳幼児の育ちの視点から」「教育現場から見る子どもの“じりつ”—経済的条件をめぐって」「子どもの人権から考える—大学生の目から見た現代の子ども」「保育における遊びとじりつ」においても、子どものライフステージに即した“じりつ”を議論することができました。

今日の子どもを取り巻く環境は、かつてないほど多面的、複合的問題が派生し、関係者間の連携、問題に対応するための精緻な分析が不可欠となっています。子どもにかかわる教育・福祉実践者と研究者が集う小さな学会が果たすべき役割を再認識し、大会を終えることとなりました。

『子ども学会のポスター』
短大部の川部先生によるデザイン。こ・ど・もの字を用いて、じりつを描いています。本ポスターは、札幌アートディレクターズクラブ(SapporoADC)第10回コンペティション ジェネラルグラフィック(平面)部門において入選されました。



全国大会出場報告

剣道部

経済学部 経済学科 三年

清川 貴志

私は今年五月に行われた北海道学生剣道選手権大会でベスト8まで勝ち上がり、七月四日に日本武道館で行われた全日本学生剣道選手権大会に出場してきました。

私は全国大会に出場するのは初めての経験でした。会場が日本武道館であり、憧れの舞台で試合ができることを思うと、緊張はしましたが、それ以上に早く試合をしたというやる気がありました。私は大阪体育大学の選手と試合をすることになりました。序盤は動

きが硬く思うように剣道をすることができませんでした。しかし、後半から気持ちを切り替えて自分の剣道をするのができたと思います。試合は両者に有効な打ちがなかったために延長戦になりました。最後は面をきめられてしまい、初戦で敗退してしまいました。全国大会に出場する選手はレベルが高く、手数が負けていたと反省しています。しかし、強い相手でも、よい試合ができるという自信をつかむこと

ができました。このような貴重な経験ができたのは、後援会の支援があったことだと思いがとうございました。今回は残念な結果ではありましたが、来年も北星学園大学から全国出場者を出すため、剣道部は努力していきます。今後とも、ご支援よろしくお願ひします。



武道館前にて

ハンドボール部

社会福祉学部 福祉学科 三年

近藤 彩香

私たち女子ハンドボール部は五月に行われた北海道学生ハンドボール春季リーグ戦大会で優勝し、八月十二日から三日間、長野県千曲市で行われた東日本学

生選手権大会に出場してきました。東日本学生選手権大会は、北海道・東北・北信越・関東地区からそれぞれ二校参加し、二つのブロックに分かれて四チーム総当りで試合が行われました。今年も去年と同じ大学とのブロックになり、去年の反省を踏まえて、自分たちのチーム力を出しきろうという気持ちで試合に挑みました。結果的には、三敗というブロンズ最下位で終わってしまいました。二試合で得た経験を活かし、途中までは、リードした形で試合を進める

ことができました。このような貴重な体験ができるのも後援会の方々の支援があったことだと思っております。今回の大会では、一勝することができた試合だっただけにチーム全体でも悔いの残る大会となりました。しかし、運良く九月に行われた北海道学生ハンドボール秋季リーグ戦大会でも優勝することができ、十一月十八日から大阪で行われる全日本学生ハンドボール選手権大会に出場することができました。今回の大会での悔しさを全国大会でぶつけられるようにチーム一丸となって練習に励みたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願ひします。



活気あふれるハンドボール部

た。一点差で負け

北星学園大学からの報告とお知らせ

◆オータムコンサート開催される

去る九月十九日(日)、山崎衆さんと弦楽三重奏団レイラによるオータムコンサートが開催されました。

山崎衆さん(フルート)、鎌田泉さん(ヴァイオリン)、廣狩亮さん(ヴィオラ)、廣狩理栄さん(チェロ)の計四名にご出演いただき、フルートと弦楽三重奏の素晴らしい演奏を披露していただきました。当日は約一〇名の聴衆があり、モーツァルト「フルート四重奏曲ハ長調」「シューベルト「弦楽三重奏曲変ロ長調」」「レイハ「フルート四重奏曲ハ長調」」などが順次演奏されました。次々と奏でられるハーモニーに会場内は包み込まれ、その音色に魅了されてい



左から山崎さん、鎌田さん、廣狩理栄さん、廣狩亮さん

◆山根基世講演会開催される

去る十月九日(土)、NHKアナウンサーとして幅広い分野で活躍され、NHK退職後は「ことばの杜」を設立、「日本の話し言葉を育てる」という理念のもと社会貢献活動等を行う、山根基世氏による講演会が開催されました。今回のテーマは「もう一度考えたい ことばの力」ということ

で、山根さんの体験をもとに「ことば」の持つ奥深さについてお話ししていただきました。参加者の方々は、山根さんの語りかけるような講演に熱心に耳を傾け、時には笑い、時には大きく頷き、山根さんの語りにつけ込まれていました。次年度も著名人をお呼びしての講演会を企画しますので、是非皆さんお誘い合わせの上、ご参加いただけたらと思います。



笑顔で語りかける講師

◆チャペルコンサート開催のお知らせ

日時：十二月十一日(土) 午後二時から
会場：本校チャペル(参加無料)
出演者：後藤 ミホコ(アコーディオン奏者)

「情熱のジブシー音楽」アコーディオン奏者後藤ミホコ「アコーディオン奏者」を織り交ぜたアコーディオンの魅力をお伝えします。十二月十日(金)まで受付をしております。参加希望者は「十二月十一日 後藤ミホココンサート」参加希望」とお書きの上、氏名、連絡先電話番号、参加希望人数を明記し、ハガキまたは電話、FAX、Eメールでお申込ください。

申し込み・お問い合わせ先
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1
北星学園大学総務課内
北星学園大学同窓会事務局 同窓会プロジェクト係
TEL 011-891-2731 FAX 011-892-6097
e-mail: dousoukai@hokusei.ac.jp

友人、知人の方ぜひお誘いください。なお、小さなお子さんの入場はご遠慮ください。

スミス・ミッションセンターからのお知らせ

チャペル・クリスマスイベント2010

【クリスマス礼拝・祝会】

【礼拝】
日時：12月17日(金) 16:30~17:50
会場：北星学園大学チャペル
メッセージ：藤井創(酪農学園大学教授)
司式：チャブレ
演奏：米本悦子(オルガニスト)
演奏：チャペル・クワイア、ハンドベル・クワイア、NSBC
【祝会】
日時：12月17日(金) 18:00~
会場：学生会館3階東側ホール
内容：チャペル・クワイア、NSBC、手話サークル モナミの演奏、ゲーム他

【クリスマス・チャペルコンサート】

【礼響メンバーによる金管五重奏】
日時：12月20日(月) 12:10~13:10
会場：北星学園大学チャペル
演奏：松田次史(トランペット)、倉橋 健(トランペット)、島方晴康(ホルン)、山下友輔(トロンボーン)、玉木亮一(チューバ)
曲目：アヴェマリア、くるみ割り人形セレクション他

【ハンドベル・クリスマスコンサート】

日時：12月23日(木・祝) 14:00~
会場：北星学園大学チャペル
演奏：ハンドベル・クワイア

ともに入場は無料です。尚、ハンドベル・クリスマスコンサートのみ、お名前、ご住所、電話番号、人数を明記の上、下記連絡先へハガキまたはEメールでお申込み下さい。お申込みいただいた方には、入場券を郵送いたします。
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
「北星学園大学ハンドベル・クワイア」宛
Eメール: x03008@hokusei.ac.jp
※締切は12月10日(金)、件名には「入場券申込み」と明記下さい。
お問い合わせ：総務課 011-891-2731(内線4146 担当:松本)まで

北星学園大学 教育振興寄付金(芳名)

寄付

募金のご協力に深く感謝申し上げます。
2010年7月1日から
10月31日まで
(敬称略)

☆大学短期大学部(父母一般教職員)

- 渋谷 敏
- 富塚 正道 高橋 幸久
- 金丸美穂子 川村 和幸
- 芳賀 義朗
- いわみざわ神経内科・内科CLINIC
- 株式会社 奥山内装店
- 佐藤 修子

あとがき

街中にもクリスマスのイルミネーションが飾りつけられ、目を楽しませてくれる季節となりました。今年の地区別父母懇談会も、全会場が無事に終了することができました。たくさんの方々にご参加いただき、各会場でご父母の皆様にお会いできましたこと、大変嬉しく思っております。今後もより多くの方にご参加いただけるよう努めていきたいと思っております。今年もあとわずかとなりました。インフルエンザが流行ってきています。くれぐれもお体を大切にして、皆様よいお年をお迎えください。

(後援会事務局 大野)